



今年も、万聖節 (All Saints Day) の日がやってきた。

11月1日はフィリピンの祭日であり、墓参りの日でもある。

昨年この日、マニラ南部公営墓地を訪れ、日本のお盆と同じ風景があったことをここで紹介した。

今年は、趣向を代え、フィリピン英雄墓地に足を運んでみた。

フィリピン国軍基地はマニラ国際空港至近(北東)に位置する。

ここに隣接した場所に戦没者が眠る墓地 ” Hero's Grave”がある。

閑静な住宅街に沿う道路も、この日ばかりは大渋滞、そして入り口近くになると、花やローソクを売る出店が並び、その前を大勢の墓参りの人々が行き来する様子は昨年場所と同じであった。

ところが、墓地入り口に掲げてある石碑の銘に、この場所の特殊性を悟った。

I do not know the dignity of his birth

I do know the glory of his death.

折しも、ドーン、ドーン……という号音が響きわたる。

モロ・イスラム解放戦線(MILF)との交戦で3日前にミンダナオにて戦死した国軍兵を送る銃砲の由。

そこに行くと、フィリピン国旗に包まれた棺が置かれ、銃を掲げる直立不動の国軍衛兵2名、そしてトランペットが奏でる葬送のせつないメローディが、夕焼けの空に染みわたる。

葬儀は日没時間に合せておこなわれるようであり、これからは一気に宵が迫ってきた。

墓地内を見ると、いつのまにか墓標の傍のローソクに、一斉に灯がともされ、幻想的な世界を醸しだしていた。

そして、その周りは、テントまで持参した墓参の大勢の人々。

久々に顔を合せる親戚、友人がそこに集まり夜を徹して故人を偲ぶのだ。

ここに眠る殆どが先の大戦の戦没者ではあろうが、この日見た国軍葬に、今も尚、若い命が散っていくこの国の現実を見た。